

# 欧米の名門歌劇場で活躍する若手ソプラノ、中村恵理が国内リサイタル

産経新聞 5月26日18時18分配信

ドイツ・ミュンヘンの名門、バイエルン国立歌劇場の専属歌手を務め、欧米の一流オペラハウスで活躍する若手ソプラノ、中村恵理が28日から初めての国内ツアーを開催する。シューベルトや中田喜直の歌曲、プッチーニにマスネのオペラ・アリアなど、日本で本格的に初披露する作品を集め、詩的な世界を運ぶ。

中村は大阪音楽大学大学院を修了し、新国立劇場オペラ研修所で学んだ。オランダ留学を経てロンドンのロイヤル・オペラで研修中の平成21年、世界的ソプラノ、アンナ・ネトレプコの代役を急きょ歌って大成功を収めた。22年からバイエルン国立歌劇場のソリストとして数多くのオペラで主要な役を務めるとともに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ワシントン・ナショナルオペラをはじめ欧米の一流歌劇場に招かれ、高い評価を受ける。

「さまざまな制作段階でオペラの準備がいつも同時進行的に進められています。それだからこそ一つ一つの舞台を大切にしたい。生の舞台では本当にいろいろなことが起こります。その瞬間をどう捉え、どのように反応し、いかに表現するかが瞬時に求められます。オペラでつづられていく物語の中を生きていきたいと考えています」

モーツアルトの歌劇「フィガロの結婚」でスザンナ役を演じ、内外で脚光を浴びた。結婚の邪魔立てをする海千山千の人たちを機知に富んだ振る舞いでやり込める若い女性の心情をみずみずしい声に映し出し、おもしろおかしい人間模様にいっそうの奥行きを与えた。プッチーニが生涯の最後に手がけた歌劇「トゥーランドット」では、思いを寄せる王子の身代わりとなって命を落とすリュー役を切々とした表情で演じ、深い感動を呼んだ。

「オペラの登場人物が抱いている思いや、歌曲の中に描き込まれている情感を音楽の中から読み取り、紹介するのが歌手の役目。私がこう感じていると押し出したり、こういう世界だと私から規定するものではありません。作曲家の思いをすくい取り、それをそのまま私の声にのせ、伝えたいと努めています」

リサイタルではシューベルト「糸を紡ぐグレートヒエン」、クララ・シューマン「美しさゆえに愛するのなら」、プッチーニ「私の大好きなお父さん」～歌劇「ジャンニ・スキッキ」から、マスネ「さようなら、私たちの小さなテーブルよ」～歌劇「マノン」から、ベルデイ「ああ、そはかの人か、花から花へ」～歌劇「椿姫」から、中田喜直「すずしきうなじ」、大中恩「かなしくなったときは」、小山作之助「夏は来ぬ」などを取り上げる。

「ドイツに住み、歌っているという今の私を示すものとして、シューベルトなどドイツ歌曲を取り上げます。シューマンの妻、クララの歌曲は叙情的で女性らしい温かさにあふれています。プッチーニやマスネのオペラ・アリアも長くあたためてきたものをようやく日本のステージで歌うことになりました。日本の歌曲は、自分の表現がどうなっているのかを探り、音楽のあるべき姿を求めるときに、いつも帰ってくる大切な存在です。日本の美しい四季の情趣も織り込んで届けることができれば」

公演は△28日、ハケ岳高原音楽堂(長野県南牧村)△29日、所沢市民文化センター(埼玉県所沢市)△6月2日、札幌コンサートホール(札幌市)△4日、青葉区民文化センター(横浜市)。

- 最終更新: 5月26日18時18分